

倶多楽の火山活動解説資料（平成 20 年 3 月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 2～5）

7 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しましたが、前回（2007 年 11 月）と比較して日和山山頂部、大湯沼及び地獄谷爆裂火口の噴気活動や火口の状況に大きな変化はありませんでした。また赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各火口の温度分布に変化は見られませんでした。

なお 2007 年 5 月 3 日から大正地獄で発生しているごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出は、その後も消長を繰り返しながら継続しています（登別市による）が、これらの現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震活動（図 6、表 1）

今期間発生した火山性地震は 1 回で、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

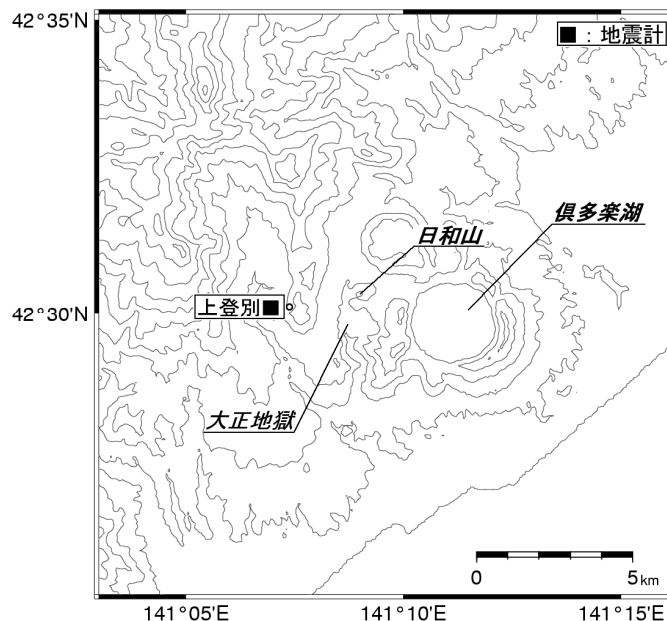


図 1 倶多楽 地震計配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 4 月分）は平成 20 年 5 月 9 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。



図 2 倶多楽 日和山と地獄谷周辺の状況
(2008 年 3 月 7 日 図 3 の①方向上空より撮影)

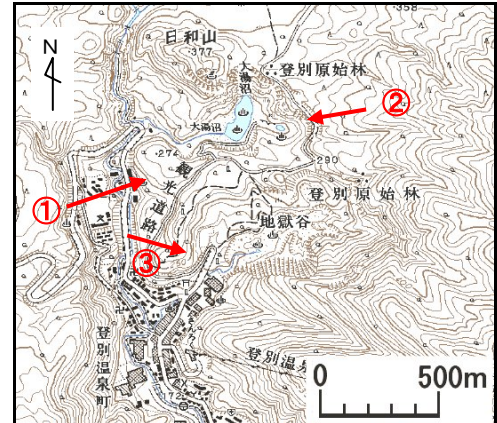


図 3 倶多楽 日和山・地獄谷周辺図

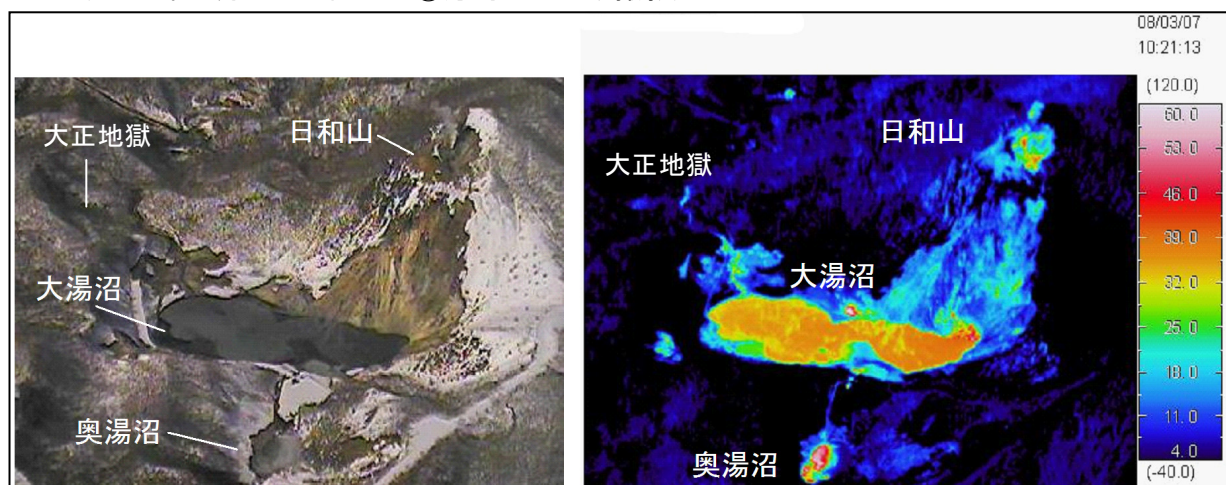


図 4 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による日和山・大湯沼周辺の地表面温度分布
(2008 年 3 月 7 日 図 3 の②方向上空より撮影)

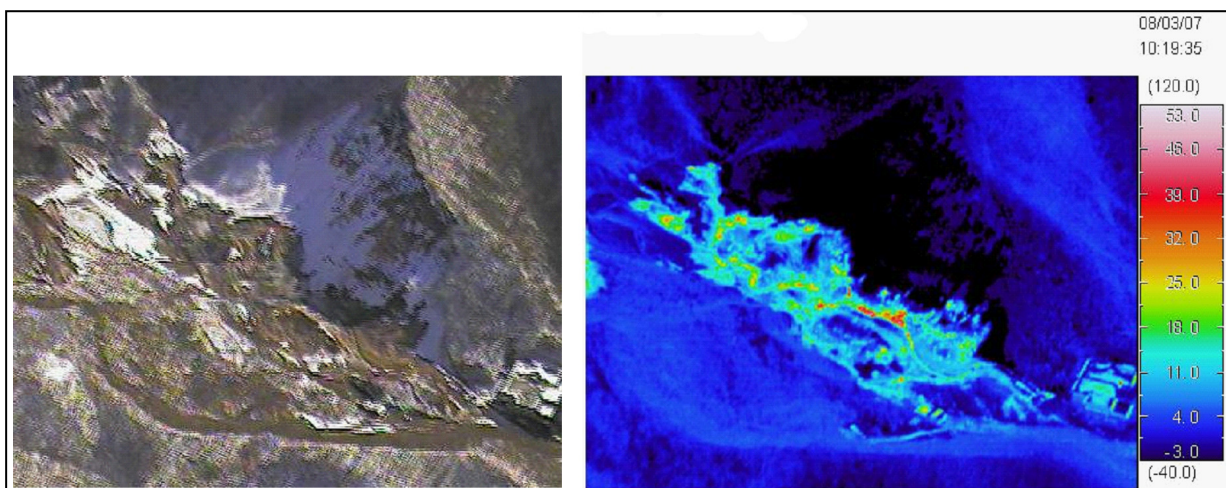


図 5 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による地獄谷爆裂火口周辺の地表面温度分布
(2008 年 3 月 7 日 図 3 の③方向上空より撮影)

- ・ 日和山山頂部の噴気孔からは白色の噴気が 20～30m 程度上り、やや活発な噴気活動が続いていました。
- ・ 地獄谷爆裂火口、大湯沼及び奥湯沼では弱い噴気活動が続いており前回（2007 年 11 月）の状況と大きな変化はなく、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも地熱域の状況に変化は認められませんでした。

表 1 倶多楽 地震・微動の月回数（図 1 の上登別）

2007～2008 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地震回数	2	0	1	1	12	0	15	0	4	1	4	1
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

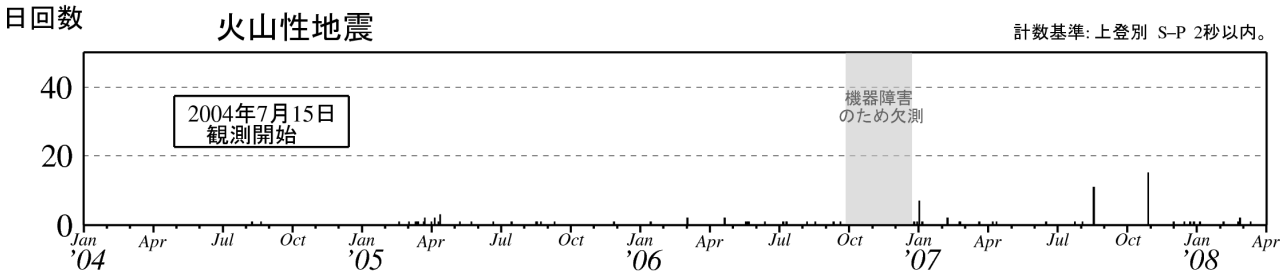


図 6 倶多楽 日別地震回数（2004 年 7 月～2008 年 3 月）